

# 東京都教育研究員 中学校美術部会 検証授業指導案

日時 平成 25 年 2 月 21 日 (木) 13 : 30 ~ 14 : 20  
 対象 第 2 学年 6 組 36 名  
 授業者 八王子市立柵田中学校 主任教諭 畠山 真理  
 場所 八王子市立柵田中学校 1 階美術室

## 1 題材名

「人にとって心地のよい環境をつくろう」  
 ～住まい・自然を含む心地よい住環境のモデル制作～  
 A 表現 (2) ウ (3) ア、B 鑑賞 (1) イ

## 2 題材の目標

自然や身近な環境の造形的な美しさを味わい、住む人の気持ちや機能、美しさを考えて構想を練り、素材の特徴を生かして心豊かな生活環境を表現し、生活を美しく豊かにする美術の働きを理解することで生涯美術を愛好する心情を養う。

## 3 研究主題に基づく題材観および指導観

	小・中学校の連続性を考慮した授業	生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業
題材観	<p><b>小</b> A 表現 (1) で高学年では「材料や場所の特徴などを基に構成し、周囲の様子を考え合わせながらつくる力」を身につけている。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>中</b> 中学校では表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的に表現する力へつなげる。</p> <p><b>小</b> B 鑑賞 (1) アで高学年では「暮らしの中の作品のよさや美しさを感じる力」を身につけている。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>中</b> 中学校では自分の部屋や家などの居住空間だけでなく、たくさんの人が暮らす自然や街並みや公共スペースも含めた大きな視点で環境を捉え、生活を豊かにする美術の働きを理解する力を伸ばす。</p>	<p>本題材は住まいや公共・自然などの人にとって心地よい環境に住む人の気持ちや機能、美しさなどの観点から考えて構想を練り、発泡スチロール、スチレンボードなどの土台の上に様々な素材の特徴を生かして、心豊かな生活環境のミニチュアを表現する。生徒には新たな表現方法を見つけ、創造する喜びを味わうことや生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解することで、中学校を卒業しても美術の楽しみ方の視野を広げ、生涯美術を愛好する心情を育むことができると考え、この題材を設定した。</p>
指導観	<p><b>小</b> A 表現 (1) 造形遊びで身に付けた材料の特徴を基に表現する力</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>中</b> 材料の特徴を基に表現する力をさらに伸ばすために様々な材料や用具の特性を生かし、新たな表現方法を工夫できるよう、様々な表現方法の種類を指導する。</p> <p><b>小</b> A 表現 (2) で身につけた形や色を通して伝える力</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>中</b> 形や色を通して伝える力をさらに伸ばすために心豊かな生活環境を発想できるよう、住む人の気持ちや機能、心地よく感じる色や形を考えさせて、材料を選ばせる。</p> <p><b>小</b> B 鑑賞 (1) アで身につけた暮らしの中の作品のよさや美しさを感じ取る力</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>中</b> 小学校の B 鑑賞 (1) アで身につけた暮らしの中の作品のよさや美しさを感じ取る力を伸ばすために「心地よい環境をつくるために形や色彩、材料、光、空間がどのように工夫されているかなどの美術の働き」に気づくようなワークシートの工夫を行う。</p>	<p>本題材は「身近な環境のよさや美しさを味わい、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解し、様々な材料を使って、心豊かな生活環境を表現する力」を身に付けさせ、生涯、美術を愛好する心情を育むことを大きなねらいとする。そのために下記の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住む人の気持ちや機能、美しさを考えて描けるよう、順序や条件を記載した「構想カード」を使用し、制作に見通しをもたせる。</li> <li>・作品の土台は生徒が負担なく制作できるよう加工しやすい発泡素材を使用する。</li> <li>・作品の大きさは上限を決めるが、形は目的意図に応じて制作できるよう、教師側で限定しないようにする。</li> <li>・素材の特徴を生かして心豊かな環境が表現できるよう様々な材料を用意する。ただし、生徒の個が生きるように、生徒にも材料を持ち寄らせる。</li> <li>・生活を豊かにする機能と美しさを兼ね備えた様々な建築・街並みなどのデザインの鑑賞を行い、生活を豊かにする美術の働きについて知る。</li> </ul>

#### 4 題材の評価規準

	ア 美術への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材 の 評価 規準	身の回りの環境の造形的な美しさや心豊かな環境を表現することに関心をもち、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。	住む人の気持ちや機能、美しさを統合的に考えて表現の構想を練っている。	素材の特徴を生かして心豊かな環境を新たな表現方法を工夫して創造的に表現している。	自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じとり、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。
学習 活動 に即 した 具体 の 評価 規準	①「心地よい環境」をテーマに主体的に主題を生み出し、構想を練ろうとしている。 ② 素材の特徴を主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。 ③身の回りの環境の造形的な美しさに関心をもち、生活を美しく豊かにする美術の働きについて主体的に理解しようとしている。	①心地よい環境を多くの人に伝えるために、住む人の気持ちや機能、美しさを考えて表現の構想を練っている。	①素材の特徴を生かし、心豊かな生活環境のイメージをもちながら自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	①自然や身近な環境の特徴や印象などから作者の生活を美しく豊かにする働きの表現の工夫を感じとり、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解を深めている。

#### 5 材料・用具

【教師】 学習プリント、鑑賞作品、発泡スチロール、空き箱、木、モデリングペースト、へら、はさみ、のり、電動のこぎり、のこぎり、釘、粘土、粘土板、紙（和紙、色画用紙など）、木工用ボンド、針金、ペンチなど

【生徒】 鉛筆、消しゴム、身の回りにある素材、ポスターカラー

#### 6 指導計画（8時間扱い）

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 第1時	・ 住む人の気持ちや心地よさ、機能を考えてつくられた身近な生活環境を鑑賞する。	・ 生活を豊かにする機能と美しさを兼ね備えた様々な建築・街並みなどのデザインの鑑賞を行い、生活を豊かにする美術の働きについて理解する。  ・ 心地よい環境をつくるために形や色彩、材料、光、空間がどのように工夫されているかななどの美術の働きに気づくような声かけやワークシートの工夫をする。	ア③ エ①
展開 第2時 ～ 第7時	・ 住む人の気持ちや機能、美しさを考えて心豊かな生活環境の表現の構想を練る。  ・ 様々な素材の特徴を生かして心地よい環境を表現する。	・ 住む人の気持ちや機能、美しさを思うように描けるよう、順序や条件を記載した「構想カード」を使用し、制作に見通しをもたせる。  ・ 心豊かな生活環境を発想できるよう、使用する者の気持ちを考えさせて、形や色を選ばせる。また、住環境だけでなく、公共の施設など環境も含め、大きな視点で捉えさせる。  ・ 素材の特徴を生かして心地よい生活環境が表現できるよう様々な材料を用意する。ただし、生徒の個が生きるように、生徒にも材料を持ち寄らせる。  ・ テーマを伝えやすくするために、作品の中で見せ場と脇役となる場所に分けてつくるよう指導する。	ア② ウ①

		<ul style="list-style-type: none"> <li>素材に長短、置く場所に奥行きをつけるなど、変化をもたせ、対比をつけることを指導する。</li> <li>素材の特徴に応じて、線を見せたり、量感を出すと美しく見えることを指導する。</li> </ul> <p>《制作全体を通して》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>刃物を扱う時の安全指導を行う。</li> </ul>	
まとめ 第8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成した自分や友人の作品を鑑賞し、作品に生活を豊かにする美術の働きの表現の工夫があることを感じとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術がもつ形や色が生活を豊かにすることに観点について話し合わせる。</li> <li>友人同士の作品の作者の生活を美しく豊かにする働きの表現の工夫を感じとるようにワークシートの工夫を行う。</li> </ul>	ア③ エ①

## 7 本時の指導計画（8時間扱い、本時5時間、50分）

### (1) 本時のねらい

心地よい環境を素材の特徴を生かしながら、新たな表現方法を工夫して創造的に表現する。

### (2) 準備する物

「5 材料・用具」を参照のこと。

### (3) 学習活動

過程	形態	学習活動	○指導上の留意点	○評価 〔 〕内は評価方法
導入 (十分)	一斉	1 本時の自分の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回までの学習内容を想起させ、進行状況を確認する。</li> </ul>	(関) 素材の特徴を主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。 〔活動の様子〕
		本時の課題 <b>素材の特徴を生かして、心地よい環境を表現の工夫しよう</b>		
展開 (三十分)	個別 (状況に応じて一斉)	2 様々な素材の特徴を生かして心地よい環境を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマを伝えやすくするために、作品の中で見せ場になる主役と脇役となるところを制作するよう指導をする。</li> <li>素材に長短をつけたり、奥行きをつけるなど、変化をもたせたり、対比をつけさせる。</li> <li>素材の特徴に応じて、線を見せたり、量感を出すと美しく見えることを指導する。</li> </ul> <p>《制作全体を通して》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術面でつまづいている生徒には、教師自身が実際に制作して見せたり、声かけを行いながら、指導する。</li> <li>個別指導の中で、共通した問題があれば一斉指導をし、よい作品があれば、参考にさせる。</li> </ul>	(技) 素材の特徴を生かし、心豊かな生活環境のイメージをもちながら、自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。〔作品〕
(まとめ) (十分)	一斉	3、本時のまとめを行い、用具の後始末をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の取り組みのよい点や努力しなければならない点と次時の鑑賞に向けての説明をする。</li> </ul>	(関) 本時の課題の達成と次回の意欲付けができています。 〔活動の様子〕